

令和6年度第1回 茂原市総合教育会議

1 期 日 令和6年9月25日(水)
開 会 午後1時15分
閉 会 午後2時42分

2 場 所 茂原市役所9階会議室

3 出席者

| | |
|----------|--------|
| 茂原市長 | 市原 淳 |
| 教 育 長 | 富田 浩明 |
| 教育長職務代理者 | 安藤 明子 |
| 委 員 | 高貫 裕一郎 |
| 委 員 | 高仲 輝夫 |
| 委 員 | 竹田 幸則 |

4 出席職員

| | |
|---------------|--------|
| 教育部長 | 佐久間 尉介 |
| 教育部次長(教育総務課長) | 新木 和敏 |
| 学校教育課長 | 矢部 博 |
| 学校教育課主幹 | 佐藤 千秋 |
| 学校教育課主幹 | 齊藤 隆 |
| 体育課長 | 石井 直美 |
| 生涯学習課長 | 岡田 公一 |
| 美術館・郷土資料館長 | 鈴木 美恵子 |
| 東部台文化会館長 | 鶴岡 嘉孝 |
| 教育総務課長補佐 | 小安 宏尚 |
| 教育総務課学校再編推進室長 | 山田 晃義 |
| 教育総務課総務係長 | 小川 貴史 |

5 傍 聴 人 0人

6 議 題

- 1 教育における諸課題について
 - (1) 茂原市の学校再編について
 - (2) 茂原市の小中一貫教育について
 - (3) 休日の学校部活動の地域移行について

7 そ の 他

8 会 議 録

教育総務課長補佐 : 定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第1回茂原市総合教育会議を開会いたします。

構成員の皆様には、ご多用の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

今年度1回目の総合教育会議となります。本日の案件は、次第にあるとおり「教育の諸課題について」の3件でございます。

重要な議題となりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、開会にあたりまして、市原市長よりご挨拶をお願ひしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

市長 : (市原市長より挨拶)

教育総務課長 : ありがとうございます。

補佐 : それでは、これより本日の議事に入らせていただきます。

本会議の議事の進行につきましては、教育部長が行うこととなっておりますので、これからは佐久間教育部長、よろしくお願ひいたします。

教育部長 : それでは、よろしくお願ひいたします。

早速議題に入りたいと思います。本日の議題は、「教育における諸課題について」の3件でございます。

まず、(1)「茂原市の学校再編について」説明をお願いします。

教育部次長 : ((1)「茂原市の学校再編について」説明)

(教育総務課長)

教育部長 : ありがとうございます。

ただいま、「茂原市の学校再編について」の説明がございましたが、これまでの教育委員会の取り組みや学校再編について、ご質問・ご意見等がありましたらお願ひいたします。

委員 : 1ページの小規模校のメリットと課題では、子ども同士の環境について、小規模校ではデメリットの方が多いと感じています。

学校の役割とは学力と社会性を育てることであるので、小規模校では、学力の面では良いが、社会性の面で問題があること、また、教員の数が少なくなるということ、教育環境も良くないと考えています。

社会の変化に対応するとすると、形を変えていくしかないのかなと感じており、社会の変化に対応して、学校がどう生き残っていくか、学校の役割をどう果たしていくかが求められているのではないかと思います。

また、なかなか保護者の理解を得られないということがありますが、地域の方々の寂しさは分かりますけれども、少子化が進んで子どもの数が少なくなる、10年後、20年後は生産年代である働き手が少なくなるということもニュース等で聞いていますので、学校再編にご理解・ご協力をいただければと思います。

教育部長 : ありがとうございます。

他にありますか。

委員 : 今まで学校再編をずっと見させていただいて、それぞれの地域の方や、保護者、子どもたちの思い等をいろいろと伺ってまいりましたが、やはり世の中が少子化していく中で、これは致し方ないことではないかと思います。

社会がグローバル化し、情勢がめまぐるしく変化する中で、子どもたちがこの世の中を生き抜いていくためには、多くの人と意見を交わし、考えを醸成していくことがとても大事だと思います。小規模校でやっていく良さも分かりますが、今の社会情勢に対応するために、子どもたちにより良い環境で学校教育を受けさせることが最優先だと思いますので、学校再編は寂しい思いもありますが、粛々と進めていただきたいと思います。

また、反対意見等もあると思いますが、子どもたちのために学校再編をするということを一番に掲げて、子どもたちのためにご理解くださいという姿勢でお話をしていただければと思います。

なかなか大変だとは思いますが、止まってしまうと子どもたちの教育環境が保たれない可能性がありますので、できるだけスムーズに行くようにお願ひしたいと思います。

- 教育部長 : ありがとうございます。
他にありますか。
- 委員 : 学校再編については、統合準備委員会等いろいろと出ささせていただいたのですが、やはり少人数だと和気藹々と幼いときからずっと一緒に、仲が良いのはとても良いことですが、その後、高校で、部活等で人数の多いところに入っていくときに躊躇してしまう生徒もいると思うので、ある程度の規模のクラスや人数がいた方が社会を生き抜く力が身に付くと思います。少人数のメリットももちろんありますが、できないことや諦めないといけないことも出てくるので、そういった面からも、やはり統合はしていくべきだと思います。
- 教育部長 : ありがとうございます。
他にありますか。
- 委員 : 茂原市は、まだこれだけの子どもたちがいるので、教育環境が確保できているとは思いますが、周りを見ますと、やはり、子どもたちの環境は本当に少子化が進んでいて、もうこういう形でやっていかないと学校運営が成り立たないところもたくさんある状況かと思えます。
このような中で、小規模というメリットもあると思いますが、やはり、競争する意識がある方が子どもたちの教育のためには良いと思います。
また、確かに学校というコミュニティがなくなると地域が寂しくなるというのは分かりますが、子どもたちにとってより良い環境がどういうものなのかを考えて、統合等を含めて検討していただければと思います。
- 教育部長 : ありがとうございます。
少子化が深刻化する中で、小さなクラスも必要かもしれないが、競争をすることも社会に出て行くために必要ではないかということで、子供たちの教育環境を最優先にと、各委員の方からご意見をいただきました。
教育長、いかがでしょうか。
- 教育長 : 若い方の多くが結婚しても親と一緒に住まずに、新しいところに住むという価値観だと、人を増やすには宅地開発等で新しいところを作らないといけなくなります。子どもの少子化とともに、そこに育った子どもが定住しないという流れになっていることも、人口減少が進んでいる要因のかなと思います。
そのような中で、再編に関して今考えていることは、適正規模といいながら1学級となり、さらに定員割れとなってしまうことです。定員35人のところ、10数人しかいないとなると子どもたちのクラス活動が成り立たなくなります。そして、その子どもたちが高校という大きな集団に行った時に、人間関係、仲間集団、係活動等の作り方すらわからないということになってしまいます。1クラス30人くらいいると活発で、いろいろな活動ができると思いますので、そういった意味での学びの質、人間関係づくりの質というのを考えていかなければいけないと思います。また、学級数によって教員の配置が定まることを考えれば、2学級以上は必要なのかなと思います。
説明会に行くと、再編ではなくて人を増やすことを考えてほしいと言われますが、茂原市の子どもたちの状況を見ると再編は考えざるを得ない状況であると思います。
- 教育部長 : ありがとうございます。
次に、市長からご意見をお願いします。
- 市長 : いろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。

教育に関して言えば、皆様方からお話があったように、子どもの教育環境のことを考えれば、より多くの児童、生徒の中で揉まれて社会性を身に付けることが大切だと思います。同時に、やはり教師の人数も非常に重要だと思います。

その一方で、少子化、人口減の社会の中で人口を増やすことは容易ではありませんが、統合問題で、保護者や祖父母の方たちとお話しさせていただくと、地域のコミュニティとして、また、地域の柱として残しておかないとという意見も相当数あり、また、これから入学予定の保護者の方からも、地域の学校に行かせたいという意見や、兄弟が学校に行っているの、学校の実情も把握はしているけれども、やはり地域の学校に行かせたいという少数意見もあります。

いろいろな意見がありますが、丁寧な説明と情報周知を行うことで共通理解を図っていければ、自ずと皆さんに理解していただけるのではないかと考えています。

- 教育部長 : ありがとうございます。
- 学校教育課長 : それでは次に(2)「茂原市の小中一貫教育について」説明をお願いします。
- 教育部長 : ((2)「茂原市の小中一貫教育について」説明)
- 委員 : ありがとうございます。
- 委員 : ただいま、「茂原市の小中一貫教育について」の説明がございましたが、このことについて、ご質問・ご意見等がありましたらお願いいたします。
- 委員 : 教員免許については更新制度が廃止されたので、持っている免許状がそのまま使えるということですか。
- 委員 : また、中学校の免許状を持っている先生を小学校に配置することは可能なのですか、また、逆の場はいかがですか。
- 学校教育課長 : 免許状につきましては、おっしゃるとおりです。
- 委員 : 教員の配置につきましては、兼務発令をかけることで可能となり、県費教職員につきましては、県教育委員会から発令となります。市採用の会計年度任用職員につきましては、茂原市で雇用しておりますので、市職員課から派遣となっております。
- 委員 : 小中一貫教育は茂原市のこれからの教育にとって、とても重要であり、小中一貫になって良かったと言われることが一番の理想であると思います。
- 委員 : ガイドライン「未来を拓く 茂原の子」では、「ふるさと茂原を愛し、高い志をもち、心豊かで未来を拓く子」を目指し、2つの視点が挙げられていますが、視点2の特色ある取り組みでは、本納小中の良さを生かして、英語教育にもっと力を入れていただきたいと思います。
- 委員 : また、子どもの数が減り、地域の人口も減ってきている中で、人口を増やすためには、いかに魅力的な街かをアピールしていく必要があります、教育に力を入れて、特色ある教育を実施することにより、茂原市がより多くの方に魅力的だと思っていただけるのではないかと思います。
- 委員 : 例えば、子ども向けの金融教育があります。アメリカに比べると、日本は金融教育を学校の教育として受ける割合が非常に低く、大人になったときに、金融に自信を持っている人の割合がアメリカは約70%なのに対し、日本は約12%しかないそうです。グローバル社会で生きていくためには、このような知識も身に付ける必要があるのではないかと思います。金融教育に関しては、金融庁や、市中銀行、各メガバンクがプログラムを実施しているようですので、特色ある教育の一つとして取り組んでいただければいいのではないかと思います。
- 教育部長 : ありがとうございます。

- 他にありますか。
- 委員 : 小中学校が同一敷地内にあることは、とてもうらやましい環境だと思います。やはり今、一人っ子や、兄弟が少ない家庭も多いと思いますので、小学生は、中学生を見て、先輩に対する憧れや目標ができると思いますし、中学生は、小学生から見られることで、模範になるように生活するようになると思いますので、とても良いことだと思います。
- また、学習面では乗り入れ授業や、中1ギャップを乗り越えるための先生方の試みはとても素晴らしいと思います。中学生になると、学校の授業も難しくなってきた、ついて行けなくなってしまう子もいると思うので、小学生のうちから基礎から見ていただいて、中学生になっても継続して見ていただけることは、保護者の方々にとっても、とても良いことだと思います。
- 本納小、中学校区のスタンダードをモデル校として先進的にやっていただいて、見学や視察をしたいと思われるようになるといいと思います。
- 教育部長 : ありがとうございます。
- 他にありますか。
- 委員 : 9年間の連続した教育については、現状、茂原市の場合は、小学校と中学校の敷地が別々であり、同じ小学校でも中学校は別々になったりと、まだまだ難しい部分もあるかと思いますが、スポーツ等では、アンダーカテゴリーや、リトル、シニア等、垣根を越えているものもありますので、今後、他の小中学校にも深く浸透していただければありがたいと思います。
- また、英語教育の充実では、ALTを活用した「スモールトーク」の導入とありますが、どのような内容を考えているのですか。
- スモールトークというと雑談や挨拶といった簡単な英語だと思いますが、日常会話の中で、英語にあたり前に触れていくことは、英語に対する壁がなくなってよいと思いますので、他の学校も含め、是非、進めていただきたいと思います。
- 学校教育課長 : ALTを活用したスモールトークにつきましては、休み時間等を活用し、単語や短い文でやりとりをすることにより、英語力を付けると同時にコミュニケーション能力を養うことを重視しております。どの小中学校にもALTが入っており、外国の人を見慣れているので、引け目を感じずに自分から近づいて、簡単な単語でもいいので会話をするという形を考えております。
- 教育部長 : 他にありますか。
- 委員 : 英語について、9年間でどのようなレベルを教えているのか、概略を教えてくださいいただけますか。
- 学校教育課長 : 小学校では、3、4年生は外国語活動、5、6年生は外国語科という教科になっています。
- 低学年のうちにはダンス等、英文を発音しながら体を動かす活動が主になっており、高学年になるとリスニングも行います。
- 中学校では教科書がありますので、文法も行いますが、どの子どもたちにも理解しやすいように工夫しながら、授業展開ができれば良いと考えております。
- 教育部長 : 教育長、いかがでしょうか。
- 教育部長 : 小中一貫教育については、働き方改革や学力向上等いろいろな取り組みがあると思いますが、中学校の先生が小学校で授業を行う乗り入れ授業については、本納ではもっと特化してやってもらいたいと思います。市の方に予算措置していただいて、講師を入れて小中交流を行うことにより6年生から同じ先生に見ていただくと中1ギャップもなくなり、小学校から中学校

への乗り入れも簡単になると思います。

また、英語教育については成果をどのように見るのかが難しいところであり、英検受験者数等の数字で表すことが1番わかりやすいことだとは思いますが、やはり小学校のうちからALTとともに英語教育に入り、中学校でも継続して見ていただくというような形になってくれればよいと思います。そのような英語教員の配置を目指し、本納中を1つのモデルとして他の学校に広めていければと思います。

教育部長 : ありがとうございます。

次に、市長からご意見をお願いします。

市長 : 様々なご意見伺わせていただいて、私も本納小中一貫については非常に注目しており、英語教育の特化に期待しております。やはり、本納小中に行きたいと思ってもらえるような、特化した英語教育や義務教育があれば素晴らしいと思います。そのためには、英語をどのレベルに持っていくのが大事であり、今の保護者は非常にシビアに結果を見ますので、やっているというだけではなく、結果を見せることも大事ですので、それに対して予算措置というところも非常に重要だと思います。

英語に特化した教育については、茨城県境町が英語移住や英検受験料が無料といった取り組みをしており、企業誘致等で人口増を目指すのではなく、教育で人口増を目指す取り組みは素晴らしいと思います。

金融の学習については、私も全く同感であり、いろいろな方からお話をいただきます。あとはこれをいかにカリキュラムの中に落とし込むか、もしくは特別授業で行うか、そういう時間調整の段階にきているのかなと思います。

また、先日、少年の主張大会に出席したのですが、1人目が本納中学校の3年生による、小中一貫についての発表であり、小学生から見ると中学生を見ながら生活できることはかなりメリットだと思うが、逆に、人生の岐路に立たされている、受験を控えている中学生にとってはどうなのかということで、中学生に対するフォローも重要だと思いました。また、なぜ職員室は1つにしないのかと、特別教室を含めた教室でバッティングすることが何回もあり、先生方にも共有のものを作ってもらえれば、それによって良い面も出せるのではないかという意見がありましたので、その辺りはしっかりやっていきたいと思います。

教育部長 : ありがとうございます。

それでは次に(3)「休日の学校部活動の地域移行について」説明をお願いします。

体育課長 : ((3)「休日の学校部活動の地域移行について」説明)

教育部長 : ありがとうございます。

ただいま、「休日の学校部活動の地域移行について」の説明がございましたが、このことについてご質問・ご意見等がありましたらお願いいたします。

委員 : 地域移行については、先生の長時間労働を軽減するという主旨は理解していますが、課題が多く、その中でも、指導者をめぐる問題が1番大きいと思っています。今、サッカーに少し関わっているのですが、土日が休みという方は少なく、土曜日に選手が集まらない状況となっています。そのような状況ですと、定年退職したが65歳までは働かないと年金が出ない方々の中からならば、指導者が見つかるのではないかという気がします。

今後、子どもの増加が見込めないとすると、分母がどんどん減ってくるので、果たして成り立つのか、なかなか条件が厳しいなと思います。

教育部長 : ありがとうございます。

- 他にありますか。
- 委員 : やはり、受け入れる地域クラブの不足が1番問題だと思います。これだけの部活動をやれるようなスポーツ団体はあまりないと思いますし、中学校も市内広範囲にありますので、それぞれの地域でやるのか、まとめてやるのか、やり方や大会等、非常に問題が多いのではないかと思います。先程も出ましたが、やはり、先生方のような指導歴のある方々に見ていただく方が、保護者も子どもも安心だと思いますので、できれば退職した先生方で経験のある方々にやっていただきたいと思います。
- 委員 : また、今後、受益者負担が増えてくると、受けられる子どもと受けられない子どもと差が出てしまうことを心配しています。その辺りも含め、いろいろと考えなければいけない部分がまだまだある気がします。
- 委員 : スポーツの大会では、企業がスポンサーとなってくれたり、バックアップしてくれたりしているので、企業のスポンサーを見つけることも1つの手かもしれないですね。
- 教育部長 : ありがとうございます。
- 委員 : 他にありますか。
- 委員 : 元々は先生方の働き方改革から始まった案ということなので、移行は致し方ないと思います。
- 委員 : 以前参加した、全国の教育委員の方のオンライン会議でも、地域移行については、各地域の委員の方もすごく悩んでおり、急いでやるというのはとても難しいというご意見が多く、その中でも、担い手がいないことが1番の悩みということでした。サッカークラブや、スポーツクラブ、スイミングクラブといったところと連携したり、特殊なスポーツではゴルフや弓道をやっていたり、高校の部活動と連携しているところもありました。これは地域差もあると思いますので、茂原市に合ったものを探していくしかないかなと思っています。
- 委員 : また、5 推進する上での課題の「大会参加に係る条件整備」については、今までは、クラブチームに所属している子は部活動の大会に出られないといった制約もたくさんあったと思いますので、これからは能力のある人の芽を摘むのではなく、機会をあたえてほしいと思います。
- 教育部長 : ありがとうございます。
- 委員 : 他にありますか。
- 委員 : 時代の流れから見ると地域移行ですが、学校生活の中でやっていた部活動が切られてしまうと、子どもたちが運動や芸術活動に触れる機会が減ってしまうのではないかと心配しています。ただ、中にはパリオリピックのブレイキンのように、新しいものも出てくとも思うので、子どもたちが運動できる場が提供されるように、地域移行をスムーズに進めていただければありがたいと思います。
- 教育部長 : ありがとうございます。
- 教育長 : 教育長、いかがでしょうか。
- 教育長 : 部活動の地域移行については、教員の働き方改革の際に、子どもが休日に部活をやり続け、疲れきって授業中に休むのではないかと議論があり、やはり休日は学校から離れていかないとということ子ども休日の過ごし方が変わってきたところで、今後、部活動の地域移行が進んでいくのなら、教育委員会は休日の子どもの過ごし方を部活動ではない視点で見なければいけない、また、学校教育の中で部活動を位置づけたときに、平日は学校でやりますが、それは子どもたちが競技や楽器に触れ合う機会であって、その後の競技力の向上については土日に地域でやってく

ださいというような線引きが必要になるかもしれないと思っています。

国や県では「地域の実情に合わせて移行」と示していますが、曖昧な表現であり、現状、平日は学校でやりますが、その後の競技力の向上については土日に地域でやってくださいというお願いになっており、小中学校の大会の仕方についても、海外では、運動に親しむことを主観にしているため15歳までは大会に出さない、全国大会は開催しないという国もありますので、子どもたちが競技、楽器に触れ合っていくその先に、どこまでを学校で見るのかという線引きが非常に難しいことだと考えております。また、競技力の向上については、各競技団体とともに考えていかななくてはいけないと考えております。

教育部長 : ありがとうございます。

市長、いかがでしょうか。

市長 : 地域移行については、部活を教えたいという教師のモチベーションを下げってしまうという側面もありますが、一方で、休日にしっかり地域で活動させてあげたいという思いも強くあります。

市としては、まずは施設整備と人員の配置というところになると思います。来年度から富士見公園の長寿命化計画を開始する予定ではありますが、茂原市は運動施設の整備が他市よりも遅れている種目が多数あります。テニスについては今まで茂原でテニスをしていなかったクラブチームも多々ありますので、そういった民間チームが戻ってきてくれることによる受け皿の増加、また、バスケットでは千葉ジェッツと交流を図れないかと探っております。陸上に関しては、この地域は施設がなく東金市に行っている状況ですので、こういったところも課題だと考えています。全て市でやることは到底無理な話であり、やはり民間活力の注入ということになると思いますので、プロジェクト的なものを立ち上げて募集を図っていくという動きを市側から見せた方が良いかと改めて感じました。また、文化部に関しましては、特に吹奏楽部は、楽器を持ってどのように移動するのかという問題があり、先程の議題の学校統廃合によって廃校になっている教室を開放するのか、そこに楽器を持っていくのか、そういったやはり学校側の制約も少し改革が必要なのかと思います。

小学校6年生まで一生懸命やっていた子どもたちが、中学の部活に入らず、クラブチームで茂原以外に行っていることを知っていますので、できるだけ早く受け皿をしっかり作るために、これから予算要求も含め、民間も巻き込んでやっていければと思っています。

教育部長 : ありがとうございます。

本日は3件の議題を上げさせていただきました。まず、「茂原市の学校再編」につきましては、少子化が深刻化する中で、小さなクラスも必要かもしれないが、競争をすることも社会に出て行くために必要ではないかということで、子供たちの教育環境を最優先にと、各委員の方からご意見をいただきました。

また、市長からは、多くの中で揉まれること、教師の配置が大事である、地域の意見もいろいろあるが、丁寧な説明と情報周知で理解をしてくれるのではないかというお話をいただきました。

続きまして、「小中一貫校」につきましては、「ふるさと茂原を愛し、高い志を持ち、心豊かで未来を拓く子」という茂原市の目指す子供像のために、英語教育の取り組みについては、茂原市スタイルという形で進めていく必要があるのではないかというお話でした。

最後に、「休日の部活動の地域移行」につきましては、受け入れる地域ク

ラブが不足している中で、茂原市のやり方を模索していく必要があること、施設整備については、茂原市は遅れているところもある中で、予算面等含めて考えていただければというお話でございました。

本日いただきましたご意見も加味し、本市の教育が抱える様々な諸課題に今後も丁寧に対応していくとともに、子どもたちの教育環境を第一に考えながら、教育施策の推進に努めてまいります。

以上で、本日の議事については終了といたします。

教育総務課長
補佐

： 皆様、長時間にわたりお疲れ様でした。

次回、令和6年度第2回の総合教育会議の日程でございますが、来年の3月下旬を予定しております。

議題と合わせまして、決定次第お知らせいたします。

また、本日の会議録になりますが、決裁後、市のウェブサイトで公表いたしますのでご了承のほどよろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和6年度第1回総合教育会議を終了いたします。